

ト云フヤウナコトヲ現ニ申シタコトモゴザイマス、從前ハ法規ノ關係上日本銀行ニ左様ナ役割ヲ果シテ貰フコトガ出來マセヌデシタガ、今回ニ改正ニ依リマシテ、左様ナ場合ニ於キマシテハ、相手國モ中央銀行、コチラモ中央銀行、斯ウ云フ五分々々ノ立場ニ於テ主トシテ爲替ノ清算取引ノ最終ノ機關、斯ウ云フコトヲ考ヘテ居リマス、ソコデ御質問ノ點ニ戻リマスガ、御話ノヤウニ「ドロップ」ハ自由「マーク」、デ「ヨーロッパ」ノ諸國ノ爲替ノ決済ヲスルト同時ニ、「ヨーロッパ」廣域經濟圈以外ノ經濟圈、即チ只今ニ於キマシテハ主トシテ東洋デアリマスルガ、東洋ノ諸國、例ヘバ我國ト「ドロップ」斯ウ云フモノトノ間ノ資金ノ決済ハ現實ニ圓ト「マルク」トノ間ニ行ハレツ、居リマス、從來先方ハ「ライヒス・バンク」デアリマシタガ、コチラハ法規上日本銀行ガ表面ニ立ツ譯ニ參リマセヌノデ横濱正金銀行ガ表面ニ出テヤツテ居リマシタガ、左様ナコトハ追々此ノ法規ノ改正ニ依リマシテ、將來ハ日本銀行ガヤルト云フコトニモ相成ラウカトモ存ジテ居リマス

○本邦(英)委員 現在ノ世界情勢カラ致シマスルト今日マデ爲替ノ中心地ト目サレマシタ英米ト日本トハ絶交シテ居ルヤウナ状態デアリマスカラ、只今ニ於テハ是等ノ國トノ爲替ノ決済ト云フヤウナコトハ、銀行業務トシテモ殆ドナナイコト思ヒマス、而シテ今日ノ戰果ノ結果、東亞共榮圈ト云モノガ目ノ前ニ展開シテ居ル譯デゴザイマスガ、此ノ東亞共榮圈ノ範圍ニ於テ輸出、輸入ノ清算ヲ或ハ「タイ」其ノ他、近ク或ハ「ブリッピング」ナドモサウ云フコトニナルノデゴザイマセウシ、ソレト類似ノ東亞共榮圈内ノ獨立國トノ種々ノ爲替ノ決済ト云フノハシタガ、斯ウ云フ風ニ巧ク貿易ノ「バランス」ガ取レテ吳レレバ、一年間ヲ通ジテト只今御話ノ二十四條ノ外國金融機關トノ爲替決済ニ關スル取引ト云フコトニナル譯デゴザイマスカ

○原田政府委員 其ノ問題ニ付キマシテハ大藏大臣カラモ御答辯申上ガタト存ジマスルガ、大體ノ順序ハ、初メカラ申上ゲマスト、極ク簡單ニ、此ノ條文ガドウ云フ風ニ現實ニ動キ出シテ來ルカト云フ順序ヲ簡單ニ申上ゲマス、先日武田サンカラノ御質問デシタガ、日本ハ管理通貨ノ國デアル、相手國ガヤハリ管理通貨ノ場合ニ其ノ間ノ決済ヲドウスルカト云フヤウナ御質問ガアツタノデアリマスガ、今日ハ仰セノ通リ「ボンド」「ドル」ノ時代ハモウ過ギタノデアリマスカラ、直接決済ヲシナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニマスガ、今日ハ仰セノ通リ「ボンド」「ドル」ノ時代ハモウ過ギタノデアリマスカラ、直接決済ト云フモノハ、直接ソレヽノ通貨ノ間ニ行ハレルノデアリマス、即チ兩國間ニ於キマスル物資ノ交流ニ依リマシテ債權債務ノ關係ガ全體トシテ相殺サレル、サウシテ輸出入ノ尻ト云フモノハ、差額ト云フモノハ——輸出入ト申上ゲマスノハ貿易外ノ受取、是ハ輸出ノ方へ入レマス、又貿易ノ支拂ヒハ輸入ノ方ニ入レマシテ、其差額ハドウ云フ恰好デ片付ケラレルカト云ヒマスト、支拂ヒ超過國ニ於キマスル受取リ超過國ノ預ケ金、或ハ受取り超過國ニ於キマスル支拂ヒ超過國ノ一時ノ借入金、斯モノガ恰好デ片付ケラレルカト云ヒマスト、支拂ヒ超過國ニ於キマスル受取リ超過國ノ預ケ金、或ハ受取り超過國ニ於キマスル支拂ヒ超過國ノ一時ノ借入金、斯モノガ目ノ前ニ展開シテ居リマス、同時ニモノガ出来タヤウニ聞イテ居リマス、ソコデ今仰シヤルヤウナ將來東亞共榮圈ノ範圍ニ於テ東京デ圓建デ總テノ決済ヲヤルト云フ場合ニ別ニサウ云フ清算取引所トカトカ云フヤウナモノハ設ケズ、當然此ノ規定デ日本銀行ガヤレルト云フノデセウカ、又サウ云フ曉ニハ特ニサウ云フ機關ヲ設ケ

テ例ヘバ上半期ハ片方カラ片方ニ品物ガ流レ、下半期ニ於テハ逆ニ一方カラ一方ニ品物ガ流レ、斯ウ云フ風ニ巧ク貿易ノ「バランス」ガ取レテ吳レレバ、一年間ヲ通ジテトントンニ決済ガサレマスガ、事實ハ中々サウハ参リマセヌカラ、只今申シマシタ一時ノ預ケ金、斯ウ云フモノデ、例ヘテ申シマスト、佛領印度支那ト日本ニ間ニ於テハ日本ガ輸入超過デ、佛印ハ日本ニ預ケ金ヲ持ツテ居ル、ソレデ有價證券ヲ買ヘバ一應片ガ付ク、斯ウ云フコトニナリマス、又コトヲ向フニ借入金ヲ持ツテ居ルト云フ場合ニハ、ソレヲ長期ノ「クレデット」ニ引直ス、斯ウ云フコトデ原則ハ片ガ付キマスガ、チラガ向フニ借入金ヲ持ツテ居ルト云フ場合ニハ、ソレヲ長期ノ「クレデット」ニ引直ス、斯ウ云フコトニナリマスガ、尤モ補助的ノ方法トシマシテ、金ヲ其處ニ送ルト云フ場合モゴザイマスガ、此ノ場合ノ金ト云フモノハ懸カ是モ大臣カラ申上ゲタノデアリマスガ、今日ハ仰セノ通リ「ボンド」「ドル」ノ時代ハモウ過ギタノデアリマスカラ、直接決済ト云フモノハ、直接ソレヽノ通貨ノ間ニ行ハレルノデアリマス、即チ兩國間ハ少シ理窟ニ走ツテ居リマスガ、ソレナラバ現實ハドウナルカト申シマスト、只今申上ゲマシタヤウニ、一二ノ國ノ間ノ物資ノ交流ノ「バランス」ガ取レルト云フコトヘ中々實際問題トシテアリマセヌノデ、ソコデ今ノ原則ヲ實地ニ動カシマス場合ニ於キマシテハ、便不便ト云フコトモ考ヘマシテ、或ル廣域經濟圈ノ中ニ決済ノ中心地ヲ求メル、「ヨーロッパ」ニ於キマシテハ、今ベルテハ、便不便ト云フコトモ考ヘマシテ、或リタイ、斯ウ云フ風ニ存ジマシテ今回ノ改正ヲ致シタノデアリマス

○本邦(英)委員 大體分リマシタガ、尙ホ一寸ソコニ駄目ヲ押シテ置キタイノデス、リタイ、斯ウ云フ風ニ存ジマシテ今回ノ改正ヲ致シタノデアリマス

ルト云フ御意見デセウカ

○原政局委員 今回ノ日本銀行ノ改正ノ此ノ部分、ソレカラ南方開發金庫、ソレカラ只今東洋ニアル各國ノ中央銀行、滿洲中

央銀行、或ハ蒙疆ノ銀行、北支ノ準備銀行、或ハ南京ノ儲備銀行、佛印支銀行モザイマス、下ツテハ南ノ方ニ段々ト左様ナ金融機關ガ出來テ參リマスガ、サウ云フモノヲ巧ク結び合ハシテ參リマスレバ、十分ニ只、今申シマシタ機能ヲ發揮スルコトガ出來ルト思ツテ居リマス、特別ノ清算機關ヲ此ノ以外ニ作ルト云フ考へハ持ツテ居リマセヌ〇本因(英)委員 ソレカラ大分他ノ委員諸君カラモ爲替局長ニ質問ガアツテ、或ル部分ハ了承シテ居ルノデゴザイマスガ、結局私ノ御間ヒシタノハ、東亞共榮圈ト云フヤウナウナモノガ愈々確立シツツアルノデアリマシテ、從來敵性ヲ持ツテ居リマシタ上海、香港、支那ニ於ケルサウ云フ方面ノ敵性モ除カレテシマツタ譯デアリマス、又東洋ノ獨立國ニ對シマシテモ管理通貨ト云フヤウナコトデ進ミタイト云フヤウナ曉ハ、サウ云フ管理通貨ガ總て共榮圈内ニ萬遍ナク行ハレルヤウナ曉ニナツタラ格別デゴザイマスガ、其ノ途上ニアル今日ニ於テ、大體日本銀行ガ今回管理通貨ト云フヤウナコトニナツテ、兌換ヲシナクテモ濟ムノデアリマスカラ、今少シ外國爲替管理法ノ第一條ニ於ケル取締ト云フヤウナモノヲ緩和スル必要ガアリハシナイカ、個人トシテハソレヲシテ貰ヒタトイ恩フノデアリマスガ、大藏省當局トシテハ、兌換ト云フヤウナ性能ヲ銀行券ガ持ツテ居ル場合ハ格別、管理通貨ト云フヤウナコトニナツテ來レバ、モウ少し外國爲替管理法ノ第一條ニ於ケル種々ノ禁止

又ハ制限事項ト云フコトニ付テ、一般ニ緩和シテ戴キタイト云フ希望ガアルノデスガ、其ノ點ニ對シテ大藏當局ハドウ云フ風ナ御考ヘヲ持ツテ居リマスカ
○原口政府委員 仰セノ通り外國爲替管理法ノ第一條ト申シマスルカ、モウ少シ全部大局のニ見マシテ、外國爲替管理法ノ運用ニ付テ新シイ情勢ニ即シテ考へ直ス必要ガアリハシナイカ、斯ウ私共率直ニ感ジテ居リマス、其ノ具體的ノ方法ト致シマシテ、昨年ノ戰爭後、押詰リマシタ年末ニ、幾分ナリトモ爲替管理法ノ適用ヲ受ケル方面ノ能率ヲ上ゲテ、手數ヲ省クト云フ爲ニ、是ハ我ガ國トシテハ初メテノコトデアツタノデアリマスガ、爲替銀行自身ニ實際上許可ノ事務ヲ扱ハセ、モウ爲替銀行ノ窓口ダケデ、日本銀行ニモ參リマセヌ、無論大藏省ニモ參リマセヌ、即決シテ處理スルト云フコトヲ始メマシテ、段々ト左様ナ仕事ヲ殖ヤシテ行キタイ、斯ウ思ツテ居リマス、ソレカラ只今御質問ノ點ハ、モウ少シ根本的な問題ニ觸レテ居リマス、兌換制度トノ關係、管理通貨トノ關係ヨリモ——其ノ點モゴザイマスガ、モツト大キナ問題ハ國際經濟、「ドル」「ボンド」ノ時代ガ過ギテ、東亞共榮圈内ニ於テ通貨ノコトヲ考へ、金融ノコトヲ考ヘルト云フ場合ニ、從來ノ外國爲替管理ト云フモノヲ根本的ニ考へ直ス必要ガアリハシナイカト私共存ジテ居リマス、之ニ付キマシテハ一つ成ベク早イ時期ニ研究致シマシテ、何等カノ結論ヲ得タイト存ジテ居リマス

○田村委員 承知シマシタ、一、二政府委員ノ御説明ヲ願ツテ明カニシテ戴キタイト思ヒマス、最近金融統制會ガ設置セラレルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、是ハ日本銀行制度ノ改革ヤラ、或ハ戰時金融金庫等ノ設置ヲ見透シテ、斯ウ云フモノガ出来るヤウニナツタト思フノデアリマス、ソコデ金融統制會ノ機能ニ付テ、出來ルダケ御説明願ヒタイ、ソレカラ金融統制會ト重要產業其ノ他ノ統制會トノ關係、金融統制會ニハ會長ニ日本銀行總裁ガナツテ、一切ノ資金關係ヲ此處デ統制シテ行クト云フ建前ニナツテ居ルヤウニ思フノデアリマスガ、サウ致シマスト、此ノ金融統制會ト他ノ關係ニ依リマシテハ、先般來議論ニナツテ居ル戰時金融金庫ト產業設備營團トノ關係等ニ及シテ來ルノデスガ、其ノ點出來ルダケ詳シク此ノ際御説明願ツテ置キタイト思ヒマス

○山際政府委員 今後我國方其ノ目的トル所ニ從ヒマシテ、種々經濟政策ヲ進メテ參リマスル上ニ、總テノソレ等ノ經濟施策ガ綜合的ニ計畫的ニ、愈、運行セラレネバナラヌト云フコトハ申スマデモナイ所デアリマス隨ヒマシテ金融ノ部面ニ於キマシテモ、ソレニ付キマンテ大體今後ノ金融統制ニ當リマスル機構ト致シマシテ、當局トシテ考ヘマシタル所ハ、只今御話ア金融統制會トソレカラ今回ノ日本銀行法案ニ依ル日本銀行

ト、更ニ御指摘ノアリマシタ戰時金融金庫、此ノ三者何レモ同ジヤウナ一ツノ考へ方カラ一括シタ思想ノ下ニ立案セラレタモノデゴザイマス、其ノ點ニ於テ三者何レモ密接ナル連繫ヲ有スルモノデアリマスルガ、特ニ日本銀行ト金融統制會トノ關係ニ付キマシテハ、大體ノ考へ方ト致シマシテハ、政府ガ金融統制ヲ實施致スニ當リマシテ、日本銀行ハ其ノ實行ニ當ル機關トシテ特ニ認メラレタル發券ノ作用ニ依リマシテ、資金ヲ放出シ、或ハ收縮シ、所謂資金操作、金融操作ノ方法ニ依ツテ實際ノ金融界ヲ統制シ、金融ノ動キヲ統制スルト云々効キヲ持ツ、他面政府ノ更ニ一ツノ、何ト申シマスルカ、協力團體トシテ金融統制會ガアル、統制會ハ即チ資金ノ操作ハ行ヒマセヌケレドモ、或ル一定ノ行爲ヲ其ノ團體ノ自律力ヲ基礎ト致シマシテ、或ル行爲ヲナスベシ、或ル行爲ハナスペカラズト云々タヤウナ方面ニ於ケル統制ヲ行ツテ行ク、即チ政府ハ眞ン中ニ立ツテ居ツテ、片手ニ日本銀行ガアツテ、一切ノ資金ニ依ル資金操作ヲ行フ、片一方ニハ金融統制會ガアツテ、是ガ資金ノ操作ハ致シマセヌガ、行爲不行爲ノ命ヅルコトニ依ツテ統制ヲ致シテ置ク、斯ウ云フ兩方ノ構ヘニ依ツテ金融ノ統制ヲ行ツテ行カウ、斯ウ云フ考へ方デアリマス隨ヒマシテ日本銀行ト金融統制會トハ、嚴密ニ政府ノ行ノ總裁ヲ以テ全國金融統制會ノ會長ニ當テマシテ、此ノ兩機關ハ全ク緊密ナル連絡ノ下ニ動キ得ルヤウニ特殊ノ配慮ヲ致シタリマスルノデ、ソコデ御指摘ノ如ク日本銀行ナ次第デゴザイマス、金融統制會ノ内

般モ發表ヲ致シタノデアリマスルガ、極クザツト申上ゲマスルト、全體ヲ包括スル統制機關ト致シマシテ、全國金融統制會ガアリ、其ノ下ノ各種ノ金融機關每ニ業態別ニ組織サレマシタ業態別統制會ト云フノガゴザイマスルモノニ於キマシテハ、例ヘバ附屬スル、更ニ業態別統制會ノ中デ、例ヘバ信用組合ノ如キ全國的ニ非常ニ澤山數ノニ組織サレマシタ業態別統制會ト云フモノヲ統制會ヲ組織スル、斯ウ云フ三段構ヘノ仕組ニナツテ居リマス、更ニイマ一ツ地域的ニ種類ヲ異ニシタ金融機關ガ集マツテ、共通問題ニ付テ統制ヲ行フ地方金融協議會ト云フ組織ヲ設ケマシテ、之ヲヤハリ全國金融統制會ノ統制下ニ置ク、斯様ナ仕組ヲ以テ此ノ金融團體ニ關スル統制ヲ致シタノデアリマス、ソコデ次ノ問題ハ然ラバ產業團體統制會トノ間ニ如何ナル關係ヲ持ツカト云フ御話ニアリマス、金融統制會ニ對シマスル仕事ノ一ツ致シマシテ、產業團體トノ連絡ヲ緊密ニスルト云フ仕事ガ謳ツテアルノデアリマス、其ノ意味ハ金融統制團體ハ一面ニ於キマシテ、他ノ產業統制團體トノ間ニ或ハ當時會合ヲ催ストカ、情報ノ交換ヲシ合フトカ、要望ノ交換ヲスルトカ、場合ニ依ツテハ役員ヲ互ニ交換スルトカ云フヤウナ組織ニ依リマシテ、兩者ノ緊密ナ連絡ヲ執ル、而シテ產業統制團體ハ其ノ下部機構デアル各種ノ產業ニ對シテ、ソレゞ々指示ヲシ其ノ方針ニ基ク一方金融統制會ニ仕組ニ於テ、兩者ノ緊密ナ關係ニ於テ金融機關ニ對シテ同ジヤウナ指示ヲスルト云フ

ヲ圓滑ニ運用スルヤウニト云フコトヲ考ヘ
テ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ御話ノ如
ク今後是等ノ全體ノ機構ヲ動カシテ參リマ
スル爲ニハ、ソレド^ム其ノ政策ノ基本ヲ押
ヘテ居リマスル各行政官廳ガ是亦緊密ナル
一體ヲナシテ運營スルニアラザレバ、其ノ
全體ガ一貫シタ政策ニ依ツテ運用セラレナ
イト云フ懸念ガアルノデアリマス、隨ヒマ
シテ今後各種ノ統制團體ガ出來テ參リマス
ルニ從ヒマシテ、愈、關係各省間ノ連絡ト
云フモノガ緊密ナラザルヲ得ナインデアリ
マシテ、又現ニ益其ノ緊密ナル關係ヲ深
ク致シツツアルノデアリマス、或ハ事務當
局ガ相互ニ頻繁ニ會合ヲシテ打合セヲスル
トカ、各種ノ連絡ノ委員會ヲ設ケルトカ、
次官會議ヲ利用シ、更ニ進ンデハ閣議ニ於
テ統一アル政策トシテ屢々論議サレルト云フ
ヤウニ、政府部内ノ横ノ連絡ヲ益々緊密ニセ
ラレツツアル、今後ソレ等ノ點ハ一層留意
ヲシテ運用セラレナケレバナラナイト考ヘ
テ居ル次第デアリマス、尙ホ或ハ御答ヘ漏
レノ點ガアルカモ知レマセヌガ、御質問ニ
依リマシテ更ニ御答ヘ申上ゲマス

ニシテ行カナケレバナラスト考ヘルノデアリマス、ソコデ大藏大臣竝ニ商工大臣ガ此ノ關係ニ立ツテ、ドウ云フ風ナ監督ヲスルデ、アリマスガ、金融統制會ガ新設セラレテ、今後大東亞戰爭ノ推移ニ基イテ益、歲出ノ増加、公債ノ激増ガ豫想サレルノデアルガ、此ノ公債政策ト金融統制會トノ關係ニ付テ何カ新タニ考慮セラレテ居ル カドウカ、此ノ二點ヲ御伺ヒシタイ

○山際政府委員 第一ノ御尋ネ、即チ今後金融統制會ヲ指導スル大藏大臣ト、產業統制團體ヲ指導スル主大臣所管大臣デアル商工大臣トハ、此ノ統制機構ノ運營ニ付テ如何ナル連繫ヲ持ツカト云フ御尋ネアツタト思フノデアリマスガ、此ノ點ハ更ニ適當ナル機會ニ於テ、大藏大臣ヨリ御答へ出來マスヤウニ申シ傳ヘタイト思ヒマス

第二ニ、公債ガ今後益、發行セラレテ參リマスニ當リマシテ、其ノ消化ニ付テ金融統制會ガ如何ナル役割ヲスルデアラウカト云フ御尋ネデアリマス、是ハ今後ノ金融問題ノ中心トナルベキツノ大キナ問題デアルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ統制會ガ成立致シマスレバ、恐ラクハ先ヅ第一着手トシテ取上げラレル問題デハイカト思ブノデアリマスガ、統制會ガ致シマス實體的ナ仕事ハ、其ノ統制會ノ會員自體ガ制定致シマス所ノ統制規定ニ依ツテ動クコトニ相成ツテ居リマス、隨ヒマシテ先ヅ統制會ガ出來マスト、其ノ會員ヲ拘束スベキ所ノ公債消化ニ關スル統制規定ヲ制定スル段取りニナルノデハナイカト思フノデアリマス、統制會ガ出來マシテカラ、其ノ理事者ガ色々適當ナ立案ヲサレルコト思ヒマスケレド

モ、假ニ豫想致シマスナラバ、例へば今後ハ如何ナル種類ノ金融機關ニ付テハ、新タル増加預金ノ何割ヲ公債消化ニ振向ケルトカ、或ハ如何ナル種類ノ金融機關ニアツテハ、年内ニ何十億ノ公債ヲ消化スルヤウニスルトカ、或ハ更ニ進シニハ增加資金ト言ハズ、金資産ノ何割ヲ公債消化ニ向ケルトカ、種々方法ハアラウカト思ヒマスガ、ソレ等ノ方法ニ從ヒマシテ恐ラクハ統制規定ガ制定セラレ、ソレニ依ツテ各會員タル金融機關ガ事實的ニ公債消化ニ向ツテ行ク、斯様ナコトニ相成ルノデハナイカド思ツテ居リマス。

リマスガ、何ト申シマシテモ各金融機關が
公債ヲ消化致シマス爲ニハ、其ノ本ニナル
預金ナリ、貯金ナリ、ソレ等ノ金ガ金融機
關ニ集メラレルト云フコトガ、前提ト相成
ツテ居ルノデアリマス、此ノ故ニ、於キマ
シテ金融機關ニ關スル問題ノミニ付キマシ
テモ、其ノ預金増加等ノ方法ニ付テ、種々
方策ガ今後考ヘラレナケレバナラスト云フ
コトハアラウカト思フノデアリマス、ソレ
等ノ點ニ付キマシテハ、吾々ト致シテモ、
常時研究ヲ續ケテ居ルヤウナ次第テアリマ
ス、尙ホ一般ノ貯蓄増加ノ方法等ニ關シテ
ハ、更ニ擔當ノ政府委員カラ御答へ致シマ
スヤウニ取計ラヒタイト思ヒマス、只今出
席致シテ居リマセヌカラ後刻ニ御願ヒ致シ
タイト思ヒマス

居リマス各種ノ金融機關デアリマシテ、直
接ニ日本銀行ガ各事業會社トノ間ニ、事業
資金ヲ出シマスコトハ豫想致シテ居ラヌノ
デゴザイマス、其ノ他稀ナル場合ト致シマ
シテハ、所謂證券市場ニ於キマシテ一定ノ
債券ノ類ヲ日本銀行ガ買取ルコトガアラウ
カトハ思ヒマスケレドモ、其ノ場合ト雖モ、
ヤハリ金融機關ナリ、或ハ證券ヲ取扱フ機
關ナリ等ヲ相手ニスルコトニナラウト思フ
ノデアリマシテ、直接ニ事業資金ノ關係ニ
於テ、產業會社ヲ取引先トスルコトハ考ヘ
テ居ラヌ次第アリマス。

○國村委員　法文ノ第三十一條ニ、管理通
貨制度ニナツテ、限外發行ノ規定ヲ設ケラ
レテ居リマスガ、是ハ季節的ノ發行ヲ狙ツ
テ居ルノデアラウト思ヒマス、モウ一つハ、
管理通貨ニナルト、發行限度ト云フコトガ
通貨ノ信用ヲ維持スル上ニ於テ、非常ニ重
大ナ點デアルト思フノデス、サウ云フ意味カ
ラ抑ヘテ居ルノデハナイカト思ブノデス
ガ、然ラバ第三十一條ノ限外發行ト云フコ
トハ季節的ノモノデアルカ、而シテ今申上
ゲタ發行限度ノ關係ヲ狙ツテ居ルノカ、若
シ季節的ノ場合ニ限外發行シタ場合ノ發行
稅ト云フモノハ、ドウ云フ風ニ御考ヘニナ
ツテ居ルノカ、承リタイト思ヒマス

○山際政府委員　第三十二條ニ於キマシテ
制限外發行ノ制度ヲ設ケマシタノハ、是ハ
只今御話ノ如ク、一時ノ季節的理由等ニ依
リマシテ、臨時的ニ金融界ノ情勢ニ應ジテ、
其ノ限度ヲ超エテ發行スル途ヲ設ケテ置キ
マスコトガ、實體ニ合フモノト云フ趣旨カ
ラ此ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、即チ若
シ此ノ規定ヲ設ケマセヌト、臨時ノ必要ニ

於キマシテモ、其ノ都度第三十條ニ依リ發行限度自體ヲ變へテ行カネバナラヌノアリマスガ、併シナガラ第三十條ノ發行限度左様ニ頻繁ニ季節的ニ變更スルコトバ豫定シテ居リマセヌ、ソレ等ノ一時的ノ必要ハ三十一條ニ依ツテ解決スル、斯様ニ考へテ居ルノデアリマス。

次ニ今回ノ改正ニ於キマシテ、從來設ケテ居リマシタ制限外發行稅ノ制度ハ、之ヲ廢止致シタノデアリマス、之ヲ廢止致シマシタ理由ハ、從來發行稅制度ハ御承知ノ如ク其ノ發行稅ノ負擔ニ依ツテ、例ヘバ金利ヲ少シク引上ゲル、其ノ結果自然資金ノ需要ヲ減殺シテ、仍テ金融ノ調節ヲ圖ラウト云フ趣旨カラ、本來制限外發行稅制度ヲ設ケラレテ來テ居ツタノデアリマス、併シナガラ今回ノ改正法案ニ於キマシテハ、稅負擔ト云フ關係金利ノ増減ト云フヤウナ關係ニ於テ、一時的ノ通貨ノ需要ヲ調節スルト云フヤウナ狀態ハ今後豫定致シマセヌカラ、テ云フ關係金利ノ必要ガナイバカリデカク、日本銀行ノ今後ノ收益ト云フモノハ一定ノ積立金ト法律上確保セラレマシタ配當金以外ハ、舉ゲテ之ヲ國庫ニ納付スル建前ニナツテ居リマスルカラ、特ニ稅ト云フ課目ニ於テ歲入ノ途ヲ設ケル必要モナイト云フ考へ方カラ廢止シタ次第デアリマス

○田村委員 ソレカラ臨時資金調整法ノ改正案ノ中ニ、報國債券ノ抽籤ヲ毎年一回以上トアルノヲ削ツテ居ルノデアリマスガ、毎年一回以上ダカラ抽籤ヲ盛シニヤラウトスハバ幾ラデモヤレル、之ヲ特ニ削ツタノハ、報國債券デアルカラ抽籤ニ依ツテ割増

メルト云フ意味デ之ヲ削ラレタノカ、尙ホ此ノ削ルニ至ツタニ付テハ從來ノ報國債券ノ抽籤ノ上ニ、何カノ理由ガアツテ茲ニ削ルニ至リマシタノカ、其ノ間ノ經緯、目標ヲ御説明願ヒタイ

○相田政府委員 現在ノ法律ニ依リマスド、報國債券ハ毎年一回以上抽籤ニ依ツテト云フコトニナツテ居リマシテ、一回以上ハ必ず抽籤ヲヤラナケレバナラヌノデアリマス、隨ヒマシテ御承知ノ特別報國債券、所謂豆債券ハ償還期限ガ二年デアリマスガ、ソレデモヤハリ毎年一回ト云フコトニ二回抽籤ヲヤツテ居リマス、今回此ノ制限ヲ撤廃シヨウト云フ趣旨ハ、要スルニ割増金附與ノ方法ニ變化ヲ與ヘル餘地ヲ多く致シマシテ、之ニ依ツテ其ノ時々ノ情勢ニ應ジマシテ、購買力吸收ニ最モ適當シタ、即チ言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、其ノ時々ノ情勢ニ應ジテ、最モ大衆ニ歡迎サレルヤウナ條件ノ債券ヲ發行シヨウト云フ趣旨デゴザイマス、毎年一回以上ト云フノ所假ニ二年ニ一遍トシカ、三年ニ一遍トカニシマスレバ、ソレダケ當籤ノ籤ヲ、即チ當リ籤ノ數ヲ多クスルト云フコトモ出來マスルシ、サウ云フ方法ニ依ツテ割増金附與ニ變化ヲ與ヘヨウト云フ趣旨ニ外ナラヌノデゴザイマス

○田村委員 サウシマスト報國債券ト云フ國民精神的ナ意味ヲ狙ツタノデハナクシテ、其ノ方ガ却テ購買力ノ吸收ニ便宜ダト云フ點ニ重點ヲ置カレタノデスカ

○相田政府委員 只今ノ御質問ノ御趣旨ヲ、或ハ私正當ニ理解シテ居ラナイノカモ知レマセヌガ、御質問ノ御趣旨ハ抽籤デ割増金ヲ付ケルト云フコトヲ止メル、其ノ爲

メノ改正デハナイカト云フ御尋ネノヤウニ

伺ツタノニアリマスガ、若シサウデゴザイ

マスレバ、改正シヨウトスル趣旨ハ、割増

金ヲ付ケルコトヲ止メテシマフト云フノデ

ハゴザイマセヌデ、其ノ割増金ヲ付ケル方

法ヲ更ニ工夫ショウ、斯ウ云フ趣旨デゴザ

イマス、割増金ト云フヤウナ方法ニ依ツテ

資金ヲ吸收スルト云フコトガ、或ハ精神的

ニドウカト云フヤウナ問題モ無論昔カラア

ルコトデゴザイマスガ、併シ此ノ點ニ付テ

ハ從來カラ政府モ説明致シテ居リマスル通

リ、政府資金ノ撒布ガ非常ニ大ニナリマシ

テ、國民所得ガ增加致シ、殊ニ從來貯蓄ト

云フヤウナ慣習モ極メテ少ク、單ナル金利

ニ依ツテハ吸收シニクイヤウナ方面ノ資金

ヲ吸收スルト云フ意味ニ於キマシテ、所謂

人情ニ機微ニ適シタ方法デ、サウ云フ方面

ノ資金ヲ吸收スルト云フ意味ニ於テ、割増

イマス

○板谷委員長 速記ヲ中止致シマス

(速記中止)

○板谷委員長 速記ヲ始メテ下サイ——長井源君

○長井委員 極メテ簡単ニ「三ノ御尋ネヲ致シタイ、私ハ金融トカ通貨トカ云フ問題ハ全クノ素人ニアリマスカラ啓蒙ノ意味デ御答ヘテ願ヒマス、日本銀行法案ヲ讀ンデ居リマシテ疑問ニナル點ガ二、三アリマス、第一ハ第三十條デゴザイマス、「主務大臣ハ前條第一項ノ銀行券ノ發行限度ヲ定ムベ

シ」、斯ウアリマス

(委員長退席、本田委員長代理着席)

主務大臣ガ此ノ發行限度ヲ定メマス場合ニ

ハ特別ナ手續ナリ用意ナリガ此ノ法案ノ外ニアルノデアリマスカ

○山際政府委員 第三十條ニ於テ銀行券ノ

發行限度ヲ定メマスニ付キマシテハ、法律

上ノ手續ヲ執ル考ヘハナイノデゴザイマ

ス以外ノ手續ヲ執ル考ヘハナイノデゴザイマ

ス、銀行券ノ最高發行限度ヲ定メマス意味

ハ、政府が今後各般ノ經濟政策ヲ實行シテ

參リマスニ付キマシテ、或ハ生産デアルト

カ配給デアルトカ、消費、ソレカラ國ノ財

政ノ需要、一般金融情勢、其ノ他各般ノ事

項ヲ綜合致シマシテ、而シテ其ノ綜合サレ

タ一定ノ計畫ト云フカ、ソレニ合フヤウナ

通貨量ヲ大體目安トシテ掲ゲ、ソレヲ一應

ノ基準トシテ示シテ置ク、斯ウ云ツタ意味

合ヒノ規定ナノデアリマス、勿論此ノ事タ

シテ、此ノ毎年一回以上ト云フ制限ヲ削リ

マシタノハ、割増金ヲ止メルト云フ趣旨デ

ノ資金ヲ吸收スルト云フ意味ニ於テ、割増

イマス

○山際政府委員 形ノ上カラ申シマスルト、

御話ノ如キ結果ニナルノデアリマス、實ハ

昨年ノ春御定ヌヲ願ヒマシタ發行制度ノヤ

リ方ト、此ノ點ニ關シマシテハ同ジヤウナ行

キ方ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアリマス

○長井委員 サウ致シマスト、私ハ是ハ大

變ナ問題デナイカト思フノデアリマス、從

來金本位制ヲ採ツテ居リマシタ時ハ、勿論

制限外ノ發行モ許サレテハ居リマシタケレ

ドモ、何ト云ツテモノニ依ル制

限ヲ受ケテ居ツタノデアリマスカラ、假令

大藏大臣ガ此ノ發行限度ヲ決メルト致シマ

シテモ、ソレニ對スル顧慮ナシデハ決ラナ

イト云フコトニナル譯デアリマスカラ、此

ノ儘ノ規定デモ其ノ金本位ノ金ガソレヲ制

限シテ行クト云フコトニナル譯デアリマス、

所ガ今度管理通貨ニナリマスト、何等ノ制

限スキ、或ハ評議諮詢スペキ機關モナシ

ニ、大藏大臣ガ自由ニ之ヲ決定スルト云フ

コトニナリマスト、只今ノヤウナ時勢デシ

タラ、澤山ノ通貨ガ出マシテモ貯蓄トカ公

債ヲ買ハセルトカ云フコトデ回収ノ付ク方

法モアリマスシ、或ハ又賀屋サンガ大藏大

臣ノアリマス、而シテ之ヲ具體的ニ取極メ

マスル場合ニ、何モ規定ハ別ニゴザイマセ

ヌケレドモ、勿論關係方面、或ハ日本銀行

其ノ他ノ民間ノ方面トモ十分意見ヲ交換致

シマシテ、各種ノ資料ニ基イテ其ノ限度ヲ

定メル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

致シタイ、私ハ金融トカ通貨トカ云フ問題

ハ全クノ素人ニアリマスカラ啓蒙ノ意味デ

御答ヘテ願ヒマス、日本銀行法ガ一旦決マシタナ

ラバ、ドウ云フ事態ニモ應ジテ行カネバナ

ラヌコトニ相成ルト思ヒマスノデ、其ノ時

ニ極メテ放漫ナ、而モ鼻ツ、ハシノ強イ大藏

大臣ガ出テ來テ發行限度ヲ勝手ニ増加ス

ル、斯ウ云フ風ナコトニナリマスト、私ハ

是ハ大變ナ問題デナイカト思フノデアリマス

ス、金ガアリマス時ハ非常ナ不自由モアリマスケレドモ——私ハ金本位制ヲドウスウト

云フ問題ヲ申スノデハアリマセヌガ、ソレガ

一ツノ標準ニナツテ制限ヲ加ヘテ居リマス

ケレドモ、管理通貨ニナリマスト、全ク信

用ノミト云フコトニナリマス、サウ云フ時

ニ大藏大臣ノ全ク自由ナル裁量ニ依ツテ決

定サルルト云フコトハ、私ハ非常ナ危険ガ

アルノデナイカト此ノ條文ヲ讀ンデ居ツテ

感ズルノデアリマスガ、是ハドウデゴザイ

マセウカ

(本田委員長代理退席、委員長着席)

度モ斯ウ云フ限度ヲ決メル譯ノモノニデモ

アリマセヌシ、大シテ煩ハシイコトデモナ

イノデアリマスカラ、ヤハリ民間ナリ銀行ナ

リ、官界ナリノ財界ニ通ジタ人々ヲ集メタ

委員會デモ作ツテ、ソレニ對シテ諮詢スル

ナリ、評議スルナリシテ決定サレマスレバ、

非常ニ安全性ヲ保チ得ルノデハナイカト思

フノデアリマス、今日出來ル立法ハ非常ニ

世間ノ狀況ニ支配サレマスカラ、ソレ等ノ

點ニ付テ特ニ考慮ヲ拂ツテ置キマセヌカ

將來平和ニデモナツタ場合ニ於テ「インフ

レ」デモ起ルヤウナコトガアツテハ私共大

變デハナイカト思ツテ御尋ネスルノデス

ガ、日本銀行券ノ發行限度ノ審査會ト云フ

ヤウナモノヲ設ケテ、ソレニ諮詢シテ御決

メナルト云フ御考ヘハアリマセヌカ

○山際政府委員 此ノ三十條ノ規定ニ依ル

發行限度ノ決定ニ付キマシテ、何等カ委員

會ノ如キ制度ヲ設ケル必要ガアルカナイカ

ト云フコトハ、實ハ立案ニ當ツテモ再應考

慮ハ致シタノデアリマスガ、種々研究致シ

マシタ結果、御承知ノ如ク今後ノ經濟政策

ガ各般ノ政策、例ハベ物動計畫ニ致シマシ

テモ、或ハ生產力擴充計畫ニ致シマシテモ、

其ノ他資金統合計畫ニ致シマシテモ、勿論

各方面ノ知識、各方面ノ意見ヲ廣く集メハ

致シマスケレドモ、何レモソレ等ヲ綜合致

シマシタ結果、政府ノ責任ニ於テ之ヲ決定シテ參ルト云フ建前ヲ執ツテ居リマス、此ノ決メ方ニ付キマシテモ、一應同ジヤウナ意見、知識ヲ十分ニ集メルト云フコトハ、法文ニハゴザイマセヌケレドモ、當然ノ前提ト考ヘマシテ、特ニ左様ナ機關ヲ設ケルマデモナイデアラウト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ發行限度ヲ決メル度數ノ問題デアリマスガ、斯カル制度ヲ執リマシタ所以モ、此ノ發行限度ナルモノハ各般ノ經濟事情ニ從ツテ相當伸縮性ヲ持タセルト云フコトヲ考ヘタノデアリマス、或ハ法定致シマスレバ、其ノ都度又頻繁ニ改正ヲスル必要モゴザイマシ實際ノ狀況ニ適應シタ伸縮ト云フコトガ保タレマイト云フ考ヘ方カラ、ソヨニ相當ノ餘裕ヲ残スト云フヤウナコトデ、此ノ規定ヲ設ケタ譯デアリマシテ、極ク最近ノ經濟狀態カラ申シマスレバ、只今決メテ居リマス發行限度四十七億圓ト云フノモ、財政需要等ヲ見比べマシテ、大體昭和十六年度ヲ目標ニシテ決メテ參ツタノデアリマスガ、暫クノ間ハヤハリ年度ノ計畫ト云フモノガ基準ニナツテ、大體一年度一回ト云フ程度ニ決メテ行カレルノデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス

度ハ金本位制カラ離脱シタ形ニケル管
理通貨デゴザイマスノデ、茲ニ保證ヲ保有ス
ルコトニナツテ居リマスガ、此ノ保證ノ如
キモ先程カラ御話ガアリマシタガ、商業手
形デアルトカ、或ハ二十條第二號ト申シマ
スト商品ヲ擔保トスル貸付ト云ツタヤウナ
モノ、ソレカラ二十二條ノ第一項ノ規定ト
云ヒマスト、是ハ政府ニ對スル貸付、形ハ
保證ト云フ形ニハナリハ致シマスケレドモ、
商業手形ト云フコトニナリマスト、相當危
險ヲ含ンデ居ルモノグラウト思ヒマス、其
ノ點ハ私ハ餘リ詳シク存ジマセヌケレドモ、
手形ハ相當危險ヲ含ンデ居ルト承知ノ上取
ラネケレバナラヌト思ヒマス、又商品ニ對
スル貸付ヲ擔保トスルト云フコトニナリマ
スト、是ハ價格ノ關係ナリ、需給ノ關係ニ
依リマシテ、私ハ通貨ノ呼ビ聲ニ大變チ影
響ヲスルモノデアルト思ヒマスルシ、又政
府ニ對スル貸付ヲ擔保トスルト云フコトニ
ナルト、政府ハ自分ノ方デ一億圓金ヲ貸セ
ト云ツテ、サウシテ一億圓ノ通貨ノ發行ヲ
許スト云フコトニナリマシタナラバ、マル
デ日本銀行ト政府ハ八百長ヲヤル恰好ニナ
リマス、制度ハ斯ウダ、或ハ條文ハ斯ウナ
ツテ居ルト言ハレバ、サウデスケレドモ、
一寸見タラサウ云フ感じヲ受ケルノデス、
ソレデスカラ、金ノヤウナモノト違ヒマシ
テ是等ノ始終動キマス擔保、或ハ今申シマ
スヤウナ多少八百長ノ出來ル擔保ニ依ル保
證ト云フモノガ、發行限度ノ保證トナツテ
居ルト云フコトニナルト、餘程危イ保證ヲ
含ムト云フコトニ解釋サレナケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、ソレデスカラ私ガ只
今申シマスヤウナ發行限度ヲ決メマス場合

私ハ此ノ次ノ條文ノ三十一條ノ主務大臣ノ認可ニ付テモ——是ハ總括的ノ認可デ宜カ
ラカト思ヒマスガ、其ノ認可ニ付テモ諸
問デモシテ置クト云フコトガ安全デナイカ
ルシテ戴イテ、此ノ邊ハ考ヘテ戴カナケレ
バナラヌノデハナイカト思フノデゴザイマ
ス、此ノ點ハソレダケニ致シマス、エライ
小サイコトデ濟ミマセヌガ、モウ一ツハ七
十條ニ「第六十八條第一項ノ補償金ニ付テ
ハ所得稅ヲ課セズ」トアリマスガ、是ハ銀
行局長ノ此ノ間ノ御説明ニ依ルト、古イ株
券ト今度ノ出資トノ間ノ市價ノ差額ヲ補償
スルト云フヤウナ御詰ダツタ思フノデア
リマスガ、ソレナラバ所得稅ヲ課ケナケレ
バナラヌヤウニ考ヘマスガ、其ノ點ヲ一寸
明確ニ願ヒタイ

○山際政府委員 最初御述ベノ點ハ格別御
答ヘ申上ゲルコトモ御要求デナイヤウデア
リマシタガ、一、二念ノ爲ニ御説明ヲ附加
ヘテ置キタイト存ジマス、各種ノ手形類ヲ
保證ト致シマスルコトハ、現在ノ兌換銀行
券條例ニ於キマシテモ同様デアリマシテ、
手形類ハ比較的資金化ガ容易デアリ、期間
ガ短イト云フヤウナ關係カラ、發行券ノ準
備物トシテ、ハ適當デアラウト云フ意味合
デ、從來カラ實ハ設ケラレテ參ツテ居リマ
ス、唯御詰ノ如ク、手形ト申シマシテモ非
常ニ不確實ナモノモアリ、商品ト申シマシテ
諄々シク御斷リハ致シマセヌデシタガ、第
一條ノ趣旨ニモ掲ゲテ居リマス通リニ、通
貨ノ價値ヲ十分ニ維持シテ行クト云フコト

ハ、日本銀行ニ與ヒラレタ根本的ノ使命デアリマス、隨ヒマシテ其ノ取りマスル所ノ手形トカ、其ノ買入レマス所ノ債券トカ云フヤウナモノハ、斷ルマデモナク確實ナ資金化ノ容易ナルモノト云フコトニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、是ハ條文ニハゴザイマセヌガ、運用上ノ心構ヘトシテ從來モサウデゴザイマシタシ、今後モ勿論左様ニ行クベキモノト考ヘテ居ルノデアリマス、ゾレカラ政府貸付金ノ問題、是ハ大體其ノ趣旨ニ於キマシテハ、從來國債ヲ保證ト致シマシテ、銀行券ヲ發行致シテ居リマシタノト同ジャウナ趣旨ニ於キマシテ認メテ居ル規定デゴザイマス、尙ホ國債ナリ貸付金ナリノ扱ヒ方ニ付キマシテハ、此ノ度ノ日本銀行法ノ改正ノ眼目ノツガ、政府ノ財政的運用ヲ十分ニ政府ト一體トナツテ支障ナカラシムルト云フ點ガ、一つノ眼目ニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、勿論放漫ナコトハナスベキデハゴザイマセヌケレドモ、政府ヘノ貸付金ナリ國債ノ發行自體ガ既ニ國家全體ノ資金統制計畫ノ間ニ於テ計畫化ナルノデアリマスカラ、隨ヒマシテ斯様ナ建前ヲ執リマシテモ、現在ノ状況ニ比べマシテ更ニ一段ト危險性ガ増スト云ツタヤウナ心配モナイノデハナイカ、左様ニ考ヘテ居リマス、此ノコトハ念ノ爲ニ附加ヘテ置キマス

是ハドヲカト申シマスルト確定利附債券ニ近イ性質ノモノトナツテ居リマス、サウニ今株價ガ五百圓ト致シマスレバ、今度貴フ出資證券ハ例へバ二百圓ト云フ價格ニナル、サウ致シマスルト、財產ト致シマシテ三百圓ノ損ガ來タ、斯ウ云フコトニナラウト思フノデアリマシテ、所得ガ、ソレダケ出來タ云フノトハ少シ意味ガ違フノデハナイガソレダケ損害ヲ被ツタト云フ觀念ト思フノデアリマシテ、所得税ヲ課ケル對象ニハ性質上ナラナイ、斯様ナ考へ方デ特ニ注意的ニ此ノ第七十條ノ規定ヲ設ケマシタ次第デアリマス

他ノ株ニ替ハルト云フヤウナ場合ヲ御考ヘ
デハナイカト思フノデアリマス、所が今回
ノ場合ハ全ク從来ニ其ノ例ガゴザイマセヌ
ノデ、株式ガ全然性質ノ違フ出資ト云フ特
別ノモノニ振替ハルノデアリマス、其ノ出
資タルヤ法文ノ第十二條ノ第二項ヲ御覽戴
キマスト御分リデアリマスガ、拂込シダ金
額シカ——將來假令日本銀行ガ萬々一何カ
ノ理由ニ依ツテ解散ト云フヤウナコトニナ
リマシテモ、其ノ限度ヲ超エテ殘餘財産ノ
分配ニ與リ得ナイノデアリマス、謂ハバ社
債ノヤウナ關係ニナリマス、隨テ株ガ株ニ
振替ハル、隨テ新シイ株ニ付テハ、尙ホ其
ノ會社ニ付テ殘餘財產全體ノ上ニ分配ヲ受
ケル權利ヲ持ツテ居ルト云フ場合トハ趣キ
ヲ異ニ致シマス、隨ヒマシテ今度此ノ法律
ニ依リマシテ振替ヘマスル所ハ、丁度日本
銀行ノ株ヲ時價デ賣リマシテ、其ノ代リニ
一種ノ社債ニ類似シタモノト國債ト代
リ金ヲ貰ツタ、斯ウ云フ結果ニナルノデア
リマス、他ノ場合トハ餘程趣キヲ異ニスル、
恐ラクハ唯一ノ特例デハナイカト考ヘテ居
ル次第デアリマス

トデアリマスレバ此ノ點ハ私ハ打切ツて置キマス
第三ハ「日本銀行ハ法人トス」ト云フ日本
銀行ノ法的性格デゴザイマスガ、是ハ大藏
省當局ノ方ニ御尋ネスルノハ適當デナイカヌ
モ存ジマセヌノデ、御答辯ハ戴カヌデモ宣
シノンデス、ドウセ特殊ノ法人ダト仰シヤ
ルニ違ヒナイノデス、特殊ノ法人ハ最近澤
山出テ參リマシタガ、先ヅ最近ノモノトシ
テハ、營團ノヤウナモノハ特殊ノ法人トシ
テ大體ノ性格ヲ今日ナシテ來テ居リマスガ、
日本銀行ノ法人ハ此ノ法文ヲ拜見シマシテ
モ全ク違ツタモノアリマス、斯ウ云フ風
ナ違ツタモノヲ法人トシテ取扱ハレマス場
合ニ、法律ヲ解釋致シマスヤウナ時ニハ、
何カ準據スル法律ノ思想ガナケレバナラヌ
譯ニアリマス、ソレハ固定シタモノデハア
リマセヌケレドモ、一ツノ政府ノ機關ノヤ
ウニナツテ居ルモノハ、一ツ／＼全ク公的
ナモノカ、或ハ私的ナモノカ、或ハ特殊ナ
モノカ、何カ法文ノ解釋ニ迷ツテ來タ場合
ニ、ソレガ準據スルモノハ今日マデノ法律
上ノモノデナケレバ困ル譯ニアリマス、斯
ウ云フ時代デスカラ、變ツタ法律的ナ思想
ガ出テ來テモ宜シイノデスガ、ソレガヤタ
ラニ是モ特殊法人ダ、アレモ特殊法人ダトニ
云フコトニナリマスト、私ハ法律ノ普遍安
當性ヲ害スルコトニナルト思フノデス、サ
ウシマスト法律解釋モ非常ニ困難ナコトニ
ナツテ來マシテ、法律ヲ捨ヘル意味ガ非常
ニ困ツタコトニナルト思フノデスガ、是ハ
法的性格ニ付テ何カ特殊ニ御考ヘニナツテ
居ルコトガゴザイマシタナラバ伺ヒマス、
サウデナカツタナラバ是ハ御答辯ヲ戴カナ
イデモ宜シウゴザイマス、司法關係ノ所デ

同ツテ見ヨウト思ツテ居リマス
ソレカラ戰時金融金庫法ニ付テ伺ヒマス、
第二條ニ「戰時金融金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ
受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置シ又ハ
銀行其ノ他主務大臣ノ指定スル者」トアリマ
スガ、指定スル者ト云フノハドウ云フモノ
ヲ言フノニアリマスカ

○田中(豊)政府委員 銀行以外ノ金融機關
ヲ指定スル積リデ居リマスガ、當分ハ指定
スル必要ガナイデアラウト思ヒマス、必要
ガアレバ將來指定スルコトニナリマスガ、
其ノ際ハ、ヤハリ金融機關ヲ指定致シタイ
ト考ヘテ居リマス

○長井委員 次ニ臨時資金調整法ニ關聯致
シマシタ點ヲニツ御尋ネヲ致シテ見マス、
私モ是ハ存ジナイノデスガ、會社デ無報酬
デ勤メテ居リマス重役ガ辭メル場合ニ、ソ
レニ對シテ慰勞金ヲ出スト云フヤウナコト
ハ經理統制令デ出來ナイコトニナツテ居ル
ト云フコトデアリマスガ、ソレハドウ云フ
エ合デサウ云フコトニナツテ居リマスカ

○伊原政府委員 會社ノ役員ノ退職金ニ付
テノ御質問デゴザイマスガ、御承知ノ通り
役員ノ退職金ニ付キマシテハ、會社經理統
制令ガアリマシテ、之ニ依ツテ退職前一年
間ニ支給シタ役員報酬ニ其ノ在職年數ヲ掛
ケタモノノ半分ト云フモノヲ一應ノ限度ト
致シマシテ、ソレヲ超エル場合ニハ許可ガ
要ルト云フコトニ相成ツテ居リマス、隨テ
御尋ネノヤウナ場合ニハ、其ノ限度ガナイ
譯デアリマスカラ、之ニ退職金ヲ支給致サ
ウト云フ場合ニハ、許可ノ申請が原則トシテ
要ル譯デゴザイマスケレドモ、サウ云ラ風
ナ場合ニハ、大體其ノ方ノ過去ノ閱歷トカ、

ノ報酬ヲ受ケテ居ラレタ管アラウカト云
フコトモ考ヘマシテ、適當ナ金額ヲ許可ス
ルコトニ致シテ居リマス
○長井委員 分リマシタ、モウ一ツ御尋ネ
シテ置キタイノハ、經理統制令ヲ、今後續
續ト出テ來ルデアラウト思フガ、統制會ニ
適用シテ行クヤウナ御積リハアリマセヌカ
○田中(豊)政府委員 只今ノ御尋ネハ、經
理統制令ヲ統制會自體ニ適用シテ行クカト
云フ御質問デアラウト思ヒマスガ、現在ノ
會社經理統制令ハ、法規上會社ニ適用スル
コトニナツテ居リマシテ、統制會ヲ初メ其
ノ他ノ會社以外ノ各種法人ニハ適用シナイ
コトニナツテ居リマス、唯全體ノ經理統制
上サウ云フ方面ニモ擴ゲタ方ガ宜イデハナ
イカト云フ考ヘ方ハ又別ニアリ得ル譯デア
リマスガ、ソレモ各方面カラ研究ヲ要スル
コトデアリマシテ、目下ノ所ハ會社ノミニ
適用スルコトニナツテ居リマス

ノ法律ニ依リマスレバ、參與ト雖モヤハリ
其ノ取扱ハ公務員ト云フコトニナツテ居リ
マス、其ノ地位ニ任ゼラレマシタ人ガ、特
ニ自己ノ利益ヲ圖ルトカ、公共ノ利益ヲ害
スルコトヲ知リナガラ自分ノ神聖ナル意見
ヲ枉ゲテ總裁ニ具申スルト云ツタヤウナコ
トハ先ヅナカラウト信ズルノデアリマス、
實際上ノ監督上ノ必要カラ申シマスレバ、
特ニ茲ニ制裁規定ヲ設ケマセヌデモ、其ノ
目的ヲ達シ得ルノデハナイカ、斯様ニ考ヘ
マシテ、特殊ノ規定ハ置カナカツタ次第デ
アリマス

私ノ知レル範圍デハ曾テハ臺灣銀行問題
ニ於テモ日本銀行ノヤリ方如何ニ依ツテ、
返ツタト云フコトモ前例トシテ出テ居リマ
ス、ソレハ過去ノコトデアリマスガ、今後
ニ於テモ日本銀行ノヤリ方如何ニ依ツテ、
其ノノ一轡一笑ハ財界ニ非常ナ波紋ヲ生ズ
ル、一波萬波ヲ生ズルト思ハレルノデアリ
マス、餘リニ其ノ仕事ニ携ハル人ノヤリ方
ガ特殊ノ場合ハ刑法法規ヲ以テ規定サレマ
スガ、刑法法規カラ脱ケテ居ル場合ニ於テ
モ、ソレ以上ノ値打ガアル場合ガアルノニ
總裁若シクハ副總裁ガ僅カ五百圓ノ過料ニ
スガ、刑罰シテ居ルノガ近來ノ傾向デアリマス、
ナツテ居ル、ナゼコンナ輕イモノニシタノ
カ、此ノ頑動モスレバ多クノ人ニ臨ムノニ
重イ刑ヲ以テ戒シメテ、過チノナカラソコ
トヲ期シテ居ルノガ近來ノ傾向デアリマス、
日本銀行ナルガ故ニ過料ノ過ノ字デ——丁
度戸籍法違反デ届出ガ遲レタ爲ニ、一圓或
ハ一圓五十錢ノ過料ニ處スルト同ジ過料ヲ
御使ヒニナツテ居ル、餘リニ是ハ甚ダシイ
ヤリ方デハアリマセヌカ、練達堪能ノ大藏
當局ト致シマシテナゼ斯ウ云フ風ニ御遠慮
ニ相成ツタノデアルカ、寧ロスウ云フヤウ
ナ時ニ依レバ一國ノ運命ニモ關係スルヤウ
ナ、コトガ起ラヌモ限ラヌモノニ對シテハ
モソト重イモノノ科シテ、不斷カラ相戒シ
メテ、過チノナイコトヲ望ム爲ニハ重クシ
テ置クノガ宜ノデハナイカ、之ニ携ハル
人ガ皆財界ノエライ人ダカラト云フノデ御
遠慮ナスツタノデアラウカ、此ノ罰則ノ經
過ヲ御伺ヒシタイト思フ、若シ之ニ似タ他
ノ法人ニ關スル法規ガアリマスナラバ、其他
罰則規定ヲ如何ニ設クベキヤニ付キマシテ、

御話ノ如キ點モ當然考慮ニ入レテ考究ヲ致シマシタ、其ノ結果吾々ガ到達致シマシタ結論ト致シマシテハ特ニ是等役員ノ非違ニ該當スルガ如キ規定ヲ設ケナイ方ガ、却テ宜イノデハナイカト云フ結論ニ達シタノデゴザイマス、其ノ理由ハ御話ノ如ク日本銀行ノ總裁以下ノ役員ノ責任タルヤ、極メハ筋カラ申シマシテ當然デアラウト思フノアリマス、假ニ間違ヒガアリマシタ場合ニ於キマシテ重罰ヲ以テ臨ムベキコトハ、是アリ且ツ重要ナル職務デアリマスルダケニ、其ノ人ヲ得ルニ付キマシテハ十分慎重ナル手段ガ必要ナノデアリマス、而シテ其ノ人ヲ得ルニ當リマシテハ、非常ニ重イ罰則アルガ故ニ、其ノ行ヒヲ慎ムデアラウト云フヤウナ考ヘ方ニ依ツテ、其ノ人ヲ牽制スルト云ツタヤウナコトハ、却テシナイ方ガ立派ナ人ヲ迎ヘルニ相應シイデハナイクト云フヤウナ特殊ノ配慮ヲ致シマシテ、一應ハ御話ノ點モ十分考慮致シマシタガ、結論ト致シマシテハ、斯カル條項ヲ削除致シタヤウナ結果ニ相成ツタノデゴザイマス○内藤(正)委員 是レ以上ナシボ申上ゲテモ討論ニナリマスカラ申シマセヌガ、併シ唯殘ツテ居リマスノハ此ノ問題ハソコマデハ研究シタケレドモ良イ人ガ得ラレナイカラト云フコトデアリマス、若シ之ニ似タヤウナモノデ日本銀行デナカツタラ、ヤハリ制裁ハ重イノヲ以テ臨マレルノデアルカ、ヤハリ是レ亦日本銀行ト同ジヤウニ、日本

銀行ガ斯ウダカラ是モ斯ウダト云フヤウニナルノカ、將來ノ御方針ヲ承ツテ置キタイ、私ハ斯ウ云フ見解ヲ持ツテ居ル、刑罰法規ヲ以テ——背任横領ハ別デスガ、背任デモ横領以上ニヒドイノガアル、サウ云フモノガ唯過料ダケデ行クト云フコトニナリマスト、刑事政策ノ上ニ於テ富メル者若クハ地位アル者ダケガ逃レテ、富マザル者地位ナキ者ハ何時モ刑罰法令デヤツツケラレル、斯ウ云フヤウナ現象ヲ來スコトニナリマスノ治安ノ上ニ又思想上甚ダ面白クナイ影響ヲ及ボスノデハナイカト考ヘマスノデ、將來ノ御方針ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ説明ノ中ニナゼ過ノ字ヲ御用ヒニナツタノカ、此ノ過ノ字ニ何カ根據ガアルノカ、學問的ニツツ伺ツテ置キタイト

○山際政府委員 大體各法人ノ役員ニ對シマスル刑罰規定ニ對シマスル制裁ノ問題ハ、私ガ御答ヘ申上ゲルノハ不適當カト存ズルノデアリマス、唯日本銀行ノ非常ニ特殊ナ機關デゴザイマシテ、他ニ類例ヲ求メルコトモ困難ナ事情ニアリマス、勿論他トノ振合ヒハ考ヘマシタケレドモ、日本銀行ニ付テハ只今申上ゲマスヤウナ特別ナ配慮ヲ致シタヤウナ次第デゴザイマス、尙ほ過料ト云フ文字ヲナゼ使ツタカト云フ御尋ネデアリマスガ、是ハ特ニ理由ガアル譯デモゴザイマセス、此ノ種ノ罰則ノ適用ト致シマシテハ、過料ガ其ノ例デアラウト考ヘマシタノデ、單ニソレニ致シマシタダケノ意味デゴザイマス

○板谷委員長 此ノ際諸君ノ御諒解ヲ得テ置キタイト思ヒマスガ、大臣ニ對スル質疑ノ通告ハ昨日八名デシタガ、今日八十名ニナツテ居リマス、所デ昨日大臣ノ面前デ本

日午後一時カラ開會ヲスルカラ是非出席願
ヒタイト要求シテ置イタノデスケレドモ、
豫算委員會ニ行ツテ今日ハ來ラレナイサウ
デ已ムヲ得マセヌ、併シナガラ本委員會ニ
付託サレテ居ル法案ハ極メテ重要デアリマ
スカラ、ドウシテモ大臣ノ出席ヲ求メマシ
テ十分ノ審議ヲシタイト考ヘテ居リマス、
ソレデ明日ハ豫算分科會ガ一齊ニ開カレ部
屋ガナイ爲ニ開會ガ出來マセヌ、明後一日
ハ日曜デアリマスカラ二日ノ午後一時カラ
開會シタイト考ヘルノデアリマス、其ノ際
ハ是非一ツ大臣ニ御出席ヲ願ツテ、又大臣
ニ對スル質疑ノ通告者ハ席ヲ保ツテ戴イテ、
出來ルナラバ集約的ニ質疑ヲ進メタイト考
ヘテ居リマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後四時散會

昭和十七年一月三十一日印刷

昭和十七年二月一日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局